

「第 1 回活力ある経済社会を目指す小委員会」における主な意見

1. 九州圏と東アジアの結びつき

(1) 経済成長の著しい東アジアと九州圏との結びつきをどのように捉えていくか。

- ・九州圏の経済は東アジアとともに発展してきており、今後とも結びつきを強める方向で発展することが予想されるが、過度の結びつきは東アジア経済に振り回される結果となることから、過度の依存は望ましくないのではないか。
- ・東アジアと九州圏は地理的に近接しているものの、東アジアでは九州よりも東京等の認知度が高い。今後は、東アジアとの結びつきだけでなく、EU等世界を視野に入れた発展を目指すべきではないか。

(2) 東アジアのなかで九州圏はどのようなビジネスモデルを構築するか。

- ・東アジアと九州は地理的に隣接しており、環境問題の深刻化が懸念される。九州圏において国際的競争力の高い環境関連の産業、技術を核として、東アジアにおいてリーダーシップを発揮すべきではないか。
- ・東アジアには、IT、ソフト産業等の知的産業を担う優秀な人材が揃っており、アジアの関係を考える際にソフト産業を中心とした展開を考えるべきではないか。
- ・九州圏は、日本国内だけでなく東アジアにおける高いブランド力を持った食糧基地としての発展の方向性があるのではないか。

2. 九州圏の活力

(1) 地域経済の維持を実現する方向性はどのようなものがあるのか。

- ・建設業と医療・福祉・介護等の産業は、高齢化等の進展により地域経済にとって必要な産業であるとともに、これからの若者の地域雇用を考える上で重要な産業である。
- ・食料品製造業は停滞傾向にあるが、構成比が大きく景気変動に左右されにくい安定した産業であり、安定的な推移が九州経済を支えているのではないか。
- ・九州圏における近年の自動車産業の集積は、北部九州を中心とした組み立て工場、部品工場だけでなく、南九州の金型等のものづくりとの連携があることも認識すべき。

(2) 経済活力を維持するために、都市と地域が連携して、地域の個性や既存のストックを活用した特色ある地域づくりを行うことが必要ではないか。

- ・九州圏の農業は単なる第1次産業ではなく、情報産業、医療等との関連も必要となっており、これらの産業間の繋がりから、九州北部と南九州の連携を考えるべきではないか。
- ・若者の雇用を受け入れる多様な雇用機会が少ない。特に情報、教育関係等の頭脳産業に受け皿がない。

以上